

思考スキルの枠組みを保育にどう生かすか

第2章では、19の思考スキルが、どのような場面で、子どもが遊ぶ姿のなかに見とることができるのかを紹介しました。さらに、それぞれのスキルを育む環境構成や援助の例を紹介しました。

この章では、保育の質を高めるために、19の思考スキルの枠組みを用いて、実際の保育にどのように生かすことができるかについて、3つの活用事例を基に紹介します。

ア) 子どもの力を見とる観点にする

園内研修などでエピソードを分析する際に、子どもの姿から、どのような思考スキルを発揮しているかを見とることで、保育者の援助や環境構成を検討する観点にします。

イ) 保育計画に生かす観点にする

子どものふだんの様子から、活動のねらいにつながり、育みたい「思考スキル」を3つ程度選び、その発揮が想定できる活動や援助を計画します。

ウ) 保育計画をふりかえる観点にする

イ) の計画で想定していた思考スキルはどのような場面で発揮が見られたか、その際の援助がどのようなものであったかをふりかえます。

最初は、ア) のようにエピソード分析などを通して、子どもの姿にどんな力が芽生えているかを見とるところから始めるとよいでしょう。そして、少し慣れてきたらイ) のように計画に活用し、ウ) のように計画を基にふりかえりに活用するというように進めていくのがよいと思います。

ただ、日々の保育において、19の思考スキルをすべて頭にいれながら子どもの姿を見とっていくことは、簡単なことではないでしょう。そこで、事例では「思考スキル」を子どもの姿から見とる時に、中心的に発揮している思考スキルはどれか、保育計画では、発揮を期待したい中心的な思考スキルはどれかというように、3つ程度に絞っています。

実際の子どもの姿からは、もっと多くの思考スキルを見とることもあるでしょうし、子どもの可能性をなるべく多く見とってあげたいという気持ちもあると思います。ですので、まずは初めの一步として、子どもたちの何気ない会話や様子から「思考力の芽」を、1つ2つ見つけることから始めてはどうでしょうか。そして、保育者は子どもたちの「思考力の芽」が見えてくることで、その力をもっと育む関わりにつなげていくことができるでしょう。

19の思考スキルを一度に見とるのは難しいけれど、
3つ程度意識することからならできそう



上記の他にも、幼児期に育まれる思考力の芽と小学校以降の学習活動で発揮される思考力とのつながりを示したり、小学校の先生と行う事例分析の視点にしたりするなどの活用方法が考えられます。

子どもの力を見とる観点にする

活用のヒント

子どもの姿からどのような思考を働かせているかを見とる観点として思考スキルの枠組みを用いたある園の事例です。子どもが遊びのなかでどのように思考力の芽を發揮しているかを見とる最初の一步として、事例やエピソード分析への活用は取り入れやすいでしょう。

保育者の願いと子どもたちの関わりとの記録を基に「この場面ではA児はこの思考スキルを發揮しているのではないか」と見とり、他の保育者と共有することができます。

思考スキルの枠組みで見ることによって、子どもがもつたくさんの「思考力の芽」に気づき、それを遊びのなかで發揮していることに驚くかもしれません。そして、そのような力を發揮できるような、保育者の関わり方や環境構成の工夫につなげていただければと思います。

A園の事例より：「はてなのはな」 5歳児 春～夏

年長児のクラスにトマトの苗が届きました。子どもたちには、その苗がトマトであるということを伝えずに「何の苗だろう？」と問いかけます。

子どもたちが園にある図鑑や野菜の絵本をすべて集めて、葉の様子や茎を見ながら調べ始めました。

(図鑑を見ながらの会話)

- A児 「ににおいは ほうれんそう」
- B児 「にんじん あやしい」
- C児 「このはっぱ すみれのはなもあやしい」

しかし、何の苗なのかは答えが出ません。



水やりを毎日してしばらくたったころ、ついに花が咲き始めました。

- D児 「きいろいはなということは トマトだよ！」
- E児 「きいろいはなだけど トマトとはかぎらないよ。だって、きゅうりもきいろいはなが さくんだよ」
- F児 「ににおいは トマトだね」

そんな声が上がります。

そしてトマトの実がなりました。
「これは、トマトだね」

【保育者の思い】
子どもたちが苗を見て、何の苗かをどう予想するのか知りたい。



比較する 多面的にみる

図鑑と比べながら「ににおい」「葉の形」など、様々な視点から苗を観察している。



関係づける

これまでの野菜栽培の経験と、見ている花の色をつなげている。



理由づける 多面的にみる

トマトではなくても黄色い花が咲く、という理由で他の可能性を伝えている。



多面的にみる

「ににおい」がトマトだと気づいている。

活用のヒント

保育の計画に思考スキルの枠組みを用いたある園の活用事例です。子どもの現状から活動のねらいと内容を計画する際に、子どもにどんな姿が見られるかを思い浮かべます。ここでは、保育者は子どもたちが好きな絵本をテーマに、自分の好きな青色と実際の空の色を「比較し」たり、自分が作った色を「分類し」たりすることで、違いや共通点を見つけることを面白いと感じ、関連した他のことにも興味を広げてもらいたいと考えました。そのような子どもの姿を想定し、比べたり分類したりできるように、短冊状の画用紙をたくさん用意して、友だち同士で並べ替えられるようなスペースを用意することにしました。

思考スキルは「活動のねらい」に向かうための手段ですので、「色を『比べ』たり『分類し』たりすることによって、絵本の世界から、空に関わる自然現象に興味をわきそうだ」と期待し、そのための環境を考えていきます。

B園で作成した保育計画：5歳児 11月



子どもの現状と活動のねらい・内容 ①		
対象	活動のねらい	
5歳児 11月上旬	違いや共通点を見つけることを面白いと感じ、関連した他のことにも興味を広げる。	
子どもの現状	活動の内容	
空想することが得意で、ファンタジー的な世界観を好んでいる。一方で、自然現象への興味や「なんでだろう」と疑問を抱く様子はあまり見られない。	絵具でいろいろな青色を作ることから、興味を広げる。	
思考スキルの発揮が想定される子どもの姿 ②		保育者の援助 環境の構成 ③
思考スキル	具体的な子どもの姿	
関連づける	絵本「あおのじかん」で、日が暮れるまでのいろいろな「あお」を見て、子どもたちがふだん見る空と結びつけ、同じ「あお」の海のことなどへと関心が広がっていく。	子どもたちが大好きな絵本を用いる。絵本の話とふだんの空を結びつけて、自然への興味が高まるようにする。
比較する	自分の作った「あお」と友だちの「あお」を比べる。	絵本のいろいろな「あお」が載っているページを印刷して、作りたい「あお」を再現できるようにする。
分類する	色を比べて近い色で分けていく。	乾かすスペースを広くとり、友だちの色と比べられるようにする。 あえて短冊状に切った画用紙を用意して、比べやすくする。

【記入のポイント】

- ①：子どもの実態をとらえ、活動のねらいを明確にする。
- ②：活動のねらいに向けて発揮が想定される、または促したい思考スキルと具体的な子どもの姿を記入する。
- ③：②で想定した姿を踏まえて必要だと思う援助や環境の構成を具体的に考える。

活用のヒント

活用事例（ウ）では、前ページ（イ）の計画時点で思考スキルの発揮を想定していた事例について、計画を基にふりかえりを行っています。

実際の子どものつぶやきや様子などから思考スキルを見とっていくと、計画時点で想定していたスキルと、想定していなかったスキルがあることに気づきます。保育者は想定していたスキルを発揮する様子がどのようなものかを確認したり、想定していなかったスキルの発揮を楽しんだりしながら関わることで、子どもの「考える力」の育みにつながる援助や声かけがより鮮明になっていきます。

B園で作成した保育のふりかえり： 5歳児 11月

※活動事例（イ）のふりかえり

子どもの現状と活動のねらい・内容		
対象	活動のねらい	
5歳児 11月上旬	違いや共通点を見つけることを面白いと感じ、関連した他のことにも興味を広げる。	
活動名		
あおのじかん		
記録		
子どもの姿 ④	思考スキル ⑤	保育者の援助 環境の構成 ⑥
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな青を作る 「星空みたい」「雲みたい」と空に興味をもち、作った色と空の色を比べたり、室内にある玩具を集めて色の違いを見比べたりしていた。 「夕方になり始めた青だね」「青だけどピンクが入っている」などの違いに気づく様子がある。 歯ブラシで色を飛ばして星空を作ろうとするA児。 最初はバラバラに短冊が並べられていたが、近い色同士で並べ始める様子があった。 グラデーションで並べた時に、空や星につながっていった。 <p>●活動の後</p> <ul style="list-style-type: none"> 星や空に興味をもち始める子がでてきた。 クリスマスの装飾の時期に向けて園を「青の世界にしたい」という言葉がでてきた。 ひらがなスタンプで星の名前を押すなど関連した活動が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連づける 比較する 分類する 広げてみる 	<ul style="list-style-type: none"> 導入として「あおのじかん」という子どもたちが大好きな絵本を読んで「自分だけの青をたくさん作ってみよう」と始めた。 絵本にある、あおの種類のを印刷して、作りたい色をイメージさせた。 いろいろな青を作れるように、紙は小さく短冊状にした。 短冊を並べる時に友だちと比べられるよう、広いスペースを確保した。 空に興味がある子がいたので、空の様子を表現できるようにブラシなどの画材を用意しておいた。 保育者として活動をつなげたい気持ちをもってクリスマスの話をした。子どもからのアイデアを待った。

【記入のポイント】

- ④：活動で見られた子どもの行動やつぶやきなどを記録する。
- ⑤：計画時に想定していた思考スキルを記入し、記録した子どもの姿をふりかえる際の参考にする。線で結んでもよい。また、想定していなかった思考スキルの発揮を見とれた場合は、ここに追加する。
- ⑥：思考スキルの発揮を促したと考えられる、保育者の援助と環境構成を記録する。